平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
学校名（児童数）	網走市立白鳥台小学校（５２人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北海道網走市北浜２０１番地１３
電話番号：０１５２－６１－７１１１
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：https://sites.google.com/site/hakuchodai2000/kenkyu

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：道徳
○研究のキーワード：「一貫性のある道徳の教育課程の編成」「確かな指導観に基づく道徳の時間」「発問構成の工夫と話合いの充実」
○研究成果のポイント：
・校長の経営方針から内容項目を重点化し，道徳教育の全体計画や学級における指導計画に反映させることで，一貫性のある具体的な指導を行うことができる。
・授業を構想する際に，道徳的価値を学年間のつながりや児童の実態を意識して検討することにより，道徳の時間のねらいを明確にすることができる。
・意図を明確にした発問構成や補助的な資料の活用によって，児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることができる。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「心を耕す」
～人間としてよりよく生きる力を育てる「道徳の時間」を目指して～

（２）研究主題設定の理由

本校は，平成１７年度から道徳教育を学校研究課題に据え，その要となる道徳の時間の授業づくりに取り組んできた。道徳的実践力が道徳的心情及び判断力等の内面的資質であることを踏まえ，児童の日常生活の様子や道徳の時間に向かう姿を評価しながら，研究と実践を積み重ねてきた。しかし，状況に応じた道徳的判断力や，友人と折り合いを付けたり，相手意識をもって行動したりといった道徳的実践力は，十分に身に付いている状況ではないため，学校の教育活動全体で行う道徳教育のより一層の充実が求められる。そこで，各教科等における道徳教育を補充，深化，統合する道徳の時間の在り方について,道徳教育の全体計画とその別葉に基づいた実践研究を行い,道徳的価値を基に児童が主体的に自己の体験や考え方を振り返り，よりよく生きようとする力の育成を目指すこととし，本研究主題を設定した。

（３）研究体制

①　校内体制
ア　研修部…研究理論に基づく授業実践の推進と公開研究会の企画・運営
イ　教務部…年間指導計画に基づく道徳の時間の確実な実施
全体計画別葉に基づく道徳教育の推進（道徳教育推進教師との連携）

②　外部との連携
ア　オホーツク教育局の指導主事等による学校教育指導，来局相談の活用
イ　北海道道徳教育推進校における研究会等の視察並びに情報交流
ウ　オホーツク管内道徳教育研究会との連携による研究大会の開催

（４）１年間の主な取組の経過

平	○ 年度の重点目標を反映させた児童の姿の共有と重点内容項目の設定
成	○ 重点内容項目を具現化した全体計画及び別葉，学級における指導計画の作成
25	○ 研究構想に沿った道徳の時間についての共通理解（モデル授業）
年	○ 校内，市内，道東・道北規模の研究会における道徳の時間の授業公開，研究協議
度	○ 北海道道徳教育推進委員会及び，全道道徳教育研究大会への参加と還元

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 実効性のある道徳教育の全体計画とその別葉に基づいた指導と実践の研究

ア 年度の学校経営の基本方針を基に設定した，目指す児童の姿を実現するための内容項目を選定し，重点内容項目とした。

イ 児童の発達の段階と６年間のつながりを考慮し，各学年の指導の重点を設定した。

ウ 各教科等の特質を押さえつつ，重点内容項目の指導が全ての教育活動で意識できる全体計画を作成した。

エ 重点内容項目に関わる内容を特に充実させた別葉を作成し，道徳の時間で補充，深化，統合できるように工夫した。

オ 児童の道徳性の育ち，発達の段階，学級目標と重点内容項目を関連させた学級における指導計画を作成した。

② 教師の確かな指導観に基づく道徳の時間の授業改善

ア 確かな価値観，児童観，資料観に基づいて本時のねらいと中心発問を設定し，中心資料における児童の話合いの充実を図った。

イ 発問構成図を活用して，発問の意図と発問相互の関連を明確にし，児童の道徳的価値の自覚が深まるように工夫した。

ウ 自己の生き方を振り返らせる補助的な資料として，行事の写真や事前アンケートの結果等を活用し，自分との関わりで道徳的価値を捉えられるように工夫した。

エ 道徳ノートや「心のノート」へ記入する場面を意図的，計画的に設定し，自己肯定感を培ったり，自己の課題に気付いたりすることができるように工夫した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

① 重点内容項目を反映させた教育課程の編成を協働体制の下で行ったことで，全ての教育活動において，重点内容項目を意識した一貫した指導が可能となった。

② 確かな指導観に基づく指導を継続することで，児童の道徳性に関わる学びを系統的に捉えることができるようになり，本時のねらいと発問の意図が明確になった。その結果，展開前段で行う道徳的価値の理解を図る話合いを効果的に行うことができた。

③ 補助的な資料の活用や思いを記述する活動を継続したことで，学校だけでなく，家庭・地域における生活経験など，幅広い児童の経験が道徳的価値と関わって想起されるようになり，今までの自己と向き合う児童の姿がより見られるようになった。

④ 児童及び保護者アンケートを通して，道徳の時間に意欲的に向かう児童の姿と重点内容項目に関わる児童の道徳性の育ちを把握することができた。

（２）研究成果の意義等

年度の経営方針を教育課程に反映させる視点は，実効性のある教育課程編成という観点から意義があり，いずれの地域，学校においても重要な視点である。また，確かな指導観をもって道徳の時間を構想するという視点は，６年間を通した道徳的実践力の育成につながり，道徳の時間の特質を踏まえた授業改善に資するものである。

（３）指定期間終了後の取組

今後も道徳教育，道徳の時間の充実改善に向けた研究を行い，継続して公開研究会を開催し，地域のパイロット校として道徳教育の重要性と魅力を発信していく。